

AMUSEMENT SQUARE stage



演劇空間スペースベン

ac-sep, virtualな空間

〈文〉青森市在住 森田誠

11月21日、青森市野尻のJAZZ喫茶「BUD」で行われた「out of order-Carnation Carnival」を観た。「virtual theater ac-sep」のLive #4である。

天井まで5メートル以上はあろう、吹き抜けの大空間。壁一面の棚に並べられた夥しいジャズレコードの数々。薄暗い照明。グラインドピアノ。古びた反射式石油ストーブの朱色の火。間口いっぱい伸びるカウンターの奥では、伶俐な横顔のマスターがグラスを磨いている。そして、ピアニストの奏でる感傷的で優しい調べの中、その「祭」は、幕を開けた。

「祭」は、その年の初雪の日に行われる。そして今年の祭の仕切りを任されたのは、喫茶店の従業員と、その幼友達で、最近「ある病院」を退院した二人の男。二人

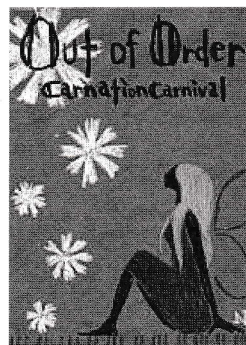
は祭への期待と不安の中、刻々と迫り来る「その時」をどのように迎えるべきかそれぞれの方法で思案しながら「その物」を決めかねていた。そこへ二人が通っていた高校の教師で常連客の女が訪ねてくる。この教師は、数年前に都会から赴任してきたのだが、今でも周囲の人々との付き合いに違和感を感じるといふ。教師への愛情を秘めながら労りと慰めて接する喫茶店の従業員。その好意を感じながらも踏み込めない女。そこへ、都会から、書けなくなった女流売れっ子作家が隠れ場所を求めて訪ねてくる。失踪した作家を捜索する女性編集者も現われ、「その物」の対象は揃った。

「その物」の対象を眼前にし、「その物」の決定に当たって、二人は悩む。明らかにされる過去。女流作家は女教師の親友で、そのヒット作は女教師の秘密の日記を焼き写したものだ。そしてその秘密の日記に書かれていたのは、祭の仕切り役の一人である「ある病院」を退院した男、すなわち自らの教え子との不適当な関係。女教師はその男を心底愛していたにもかかわらず、周囲の目や親友の裏切り

に耐え切れずにこの村に逃れてきたのだ。そして自らの奥底に隠した過去こそが、この人々との違和感の原因となっていたことに初めて気付く。様々な過去が交錯する中、「ある病院」を退院した少年院上がりの男が眩く。

「祭」には、この村以外の女が一人必要なんだ。初雪が降った日に、村以外の女の肉を村人みんなで食う。それが、祭だ」

それぞれの思いで動揺し、驚愕する教師、作家、編集者の女たち。祭の開始を迫る村人の声に押され、男が無茶苦茶に放った一発の銃弾は、かつて愛した女の脇をすり抜け、女性編集者の腹にめり込む。しかし、女教師も、愛する女が今でも親友を愛し続けている事実

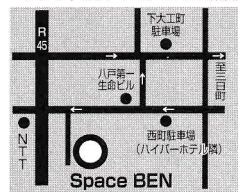


絵描き屋 nameie

1月の Friday Amusement Negative Shop

- 1月7日 (570回)
三浦哲郎作品集
リーディングvol.1
- 1月14日 (571回)
三浦哲郎作品集
リーディングvol.2
- 1月21日 (572回)
三浦哲郎作品集
リーディングvol.3
- 1月28日 (573回)
三浦哲郎作品集
リーディングvol.4

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売



駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。(近くに西町駐車場有り)

スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 03-5908-9120

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんによるジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないでいるあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っています。

tsutomu tanaka 070-5095-2028
スペースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>
Eメールアドレス owner@spaceben.com

virtual theater ac-sep (空間シアター アクセプ)

青森市の劇団雪姫で芸歴を積んだ小笠原真理子と畑山由実子、田邊彦彦(劇団夢遊病社)の3名が中心となって2003年9月に結成された演劇集団。従来の演劇表現にとらわれず多彩な表現方法で無分別・無計画・無鉄砲・無頓着に演劇ライブを行っている。これまでスペースBENの他、猫屋敷と化した倉庫、喫茶店、jazz喫茶などを会場に上演。
URL <http://www.h6.dion.ne.jp/~ac-sep/>

うかについても疑問である。「virtual」は「reality」を伴ってこそ、私たちの意識に響いてくるものだと思うからだ。今回参加した役者たち、特に3人の女優の美しく、力のある芝居に拍手を送りたい。ピアノと宣伝美術にも参った。また、大きな期待感を持って「ac-sep」の舞台を観たいと思う。